

(改定) 教育大綱 施策の方向性 (案)

(改定) 教育大綱 (令和2～6年度) (案)

◆幼児期の取り組み

方針① すべての子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します

- 共働き世帯の増加や核家族化の進展に伴い、幼児期の教育・保育ニーズがますます高まりを見せる中、保育所や認定こども園など保育の受け皿の「量」を確保するとともに、巡回訪問や指導等により「質」及び「安全性」の確保に向けた取り組みを進めます。
- 子育て世帯の不安感や孤立感を和らげるよう、身近な場所で気軽に相談や交流ができる環境の充実を図るほか、子育て支援者の育成や子育て支援活動の奨励などを行うことで、親育ちや地域の子育て力向上を推進します。
- 障がいの可能性や発達に不安がある子どもに対しては、早期の状況把握に努めるとともに、市内外の関係機関などと連携し、一人ひとりの特性や支援ニーズ、家庭等の状況に寄り添いながら、きめ細やかな支援を行います。

◆義務教育期の取り組み

方針② 新しい時代を生きる子ども一人ひとりの確かな学力を育みます

- 子どもの基礎的な学力の定着を目指すとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みを推進します。
- 学習に対して困難を抱え、特別な配慮を必要とする子どもや、外国につながる子どもなど、一人ひとりの個性を踏まえ、寄り添った教育を推進します。
- 教職員の意識や実践力の向上を図るとともに、子どもが家庭環境等に関わらず均しく教育を受けられる機会、環境などを整えます。
- 子どもがグローバルに活躍するための基礎的な能力を身に付けられるよう、豊かな語学力や、外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度などを育む取り組みを進めます。
- 適切なICT環境を整備しながら時代に即した情報教育を行うとともに、子どもが論理的思考力を身に付ける一助となるプログラミング教育を推進します。

方針③ 様々な体験を通し、豊かな感性を育みます

- 良質な文化芸術や自然環境等に触れること、また、友人、教員等との日々の関わりなどを通じ、子どもの豊かな感性や人間性を育みます。
- 「あいさつ」は心の通う人間関係の入り口であり、周囲と自分自身に元気と幸せを与える大切なものであることを理解し、実践する取り組みを進めます。

方針④ 安全で安心して学校生活を送れる環境を整えます

- 自然災害や交通事故、SNSや薬物に関連した犯罪など、様々な危険から自らを守るよう、安全に関する子どもの理解を深めるとともに、関係する情報を正しく判断し、適切な行動をとれるようにする安全教育を推進します。
- 子どもが安全で安心して快適に学校生活を送れるよう、学校施設を適切に維持、管理、改修するとともに、不審者等から子どもを守ることに付いて、家庭、地域等とも協力しながら取り組みます。

これまでの総合教育会議における主な意見

- これからは共働き世帯が増えていくことが見込まれるため、もう一步踏み出した取り組みが必要である。
- 親自身が成長していくためには地域の力を活かすことが大切である。
- 保育所が増えたことなどに伴い、保育所・幼稚園等と小学校が情報連携等を密にし、早い段階から入学に向けた支援を行うことがこれまで以上に大切になる。
- 学習に対して困難を抱える子どもや外国に繋がりのある子どもには、それぞれの特性に寄り添った支援や個々の可能性を伸ばす教育を進める必要がある。

【再掲】

- 保育所が増えたことなどに伴い、保育所・幼稚園等と小学校が情報連携等を密にし、早い段階から入学に向けた支援を行うことがこれまで以上に大切になる。

【再掲】

- 学習に対して困難を抱える子どもや外国に繋がりのある子どもには、それぞれの特性に寄り添った支援や個々の可能性を伸ばす教育を進める必要がある。
- 学校施設の改修と教職員の実践力向上といったハード・ソフト両面からの教育環境の充実が必要である。
- 楽しく英語を学び、英語を好きになることは、国際感覚を育み、新しい時代を乗り越える力を身につけることにつながる。
- 将来の予測が難しい時代では、ICT機器を使いこなす力と、機械にはない人間らしい感性を働かせて新しいものを創造する力が必要である。

【再掲】

- 将来の予測が難しい時代では、ICT機器を使いこなす力と、機械にはない人間らしい感性を働かせて新しいものを創造する力が必要である。

- 災害や事件、事故などの様々な脅威に対しては、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを守ることと、子どもたちに自分の命の大切さを伝えることが大切である。

- 情報モラル教育は、子どもに向けてはもちろん、保護者に対しても重要性を理解してもらうように取り組むことが大切である。

【再掲】

- 学校施設の改修と教職員の実践力向上といったハード・ソフト両面からの教育環境の充実が必要である。

◆義務教育期の取り組み

方針⑤ 多様性を尊重し、他者と共に生きる社会性を育みます

- いじめは、他者の心や体を傷つける、決して容認できない行為である意識を育むとともに、互いの個性や良さを認め合う集団づくりなどを通じ、未然防止と早期発見、早期解決に取り組みます。
- 不登校の児童生徒に対しては、教職員や心理カウンセラー等の専門的人材などが一丸となって組織的に支援を行い、子どもや家族に寄り添いながら、早期対応、早期解決に努めます。
- 様々な価値観や文化を認め合い、他者と共に生きるための社会性を育むことができるよう、道徳教育や人権教育を推進します。
- 学校、家庭、地域が協力し合いながら子供の成長を支えられるよう、社会に開かれた学校教育の充実を図ります。

方針⑥ 放課後の居場所づくりを推進します

- 共働き世帯の増加や核家族化の進展等を踏まえ、子どもの学力向上、学習習慣の定着、異年齢の友達や地域の人との交流などを、放課後の時間を利用し、安全安心な環境で行えるよう取り組みます。

◆幼児期～義務教育期～青年・成人期の取り組み

方針⑦ 健康に関する教育を推進します

- 保護者の子育てに関する学習機会の提供に努めるとともに、育児相談や母子保健に関する情報提供等を行い、子どもが幼児期から健やかな生活習慣を身に付け、生涯を通じて健康な生活を送れるよう取り組みます。
- 子どもが自らの健康に関心を持ち、健康を維持するための実践力を身に付けられるよう取り組むとともに、子どもや保護者などの食に関する知識や意識の向上を図る食育を推進します。
- 健康都市図書館における各種催しや、健康に関する講座などを通じ、市民の健康に関する意識啓発等を図ります。

方針⑧ あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します

- 子どもの知識や感性を高める読書について、家庭や地域などとも連携しながら、子どもが読書のよさを感じることができ、自ら進んで本と向き合いたくなるような機会の提供や環境の整備等を推進します。
- 全ての小中学校でリニューアルや司書の配置が完了した学校図書館を、引き続き、子どもの知的好奇心を掻き立てる魅力的な空間とすることなどにより、児童生徒の読書活動の推進を図ります。
- 幅広い世代の人が読書に気軽に親しめるよう、市民の居場所としての役割も担う図書館について、文化創造拠点シリウスを中心としながら、中央林間図書館や渋谷図書館、学校図書館との連携強化を図るなど、「図書館城下町」を旗印に施策の充実を進めます。

方針⑨ 「人生100年時代」に輝く「学び」の取り組みを推進します

- これまでに例を見ない高齢化が全国的に進展する中、大幅に刷新した「健康都市大学」など、「学び」の機会や場の充実を図りながら、高齢の「おひとりさま」をはじめとした市民の「居場所」の充実に取り組みます。
- 心豊かで潤いのある市民生活や活力ある地域社会を実現するため、文化芸術活動に係る発表、創造の機会などを充実するとともに、次代の担い手の育成等も行いながら、文化芸術の振興を図ります。
- 市民の心と体の健康づくりや、青少年の健全育成、世代間の交流などに寄与するスポーツについて、「する」「みる」「ささえる」「つながる」の4つの視点から取り組みを推進します。
- すべての人が自他の人権を尊重し、ともに生き、支え合うまちとなるよう取り組むほか、平和の尊さや生命の大切さを学ぶ事業を推進します。

- いじめをなくすためには、子どもたちへの深い理解を心掛け、子どもたちが生き生きと学校生活を送れるよう取り組む必要がある。
- 不登校問題では、それぞれの背景を見極め、しっかりと子どもたちを見つめた指導と家庭への働きかけが必要である。
- いじめや不登校問題の解決には、学校、家庭、地域、関係機関による組織的対応力の強化が必要である。
- 「地域とともにある学校づくり」についてしっかりと考えて、新しい学校運営の仕組みを作る必要がある。
- 集団での活動や異年齢と交流する機会が少ない中、放課後事業は子どもたちの居場所として重要な役割を果たしている。
- これからは、子どもたちが自発的に様々な経験ができる環境を整えていくことが大切である。
- 【再掲】
- これからは共働き世帯が増えていくことが見込まれるため、もう一步踏み出した取り組みが必要である。

- 新しい学校教育基本計画の中でも、運動や食事の大切さを学ぶことを基本目標の柱に据えている。
- 子どもたちが健康の大切さを学ぶことは家族で健康を考えることにも繋がる。
- 「健康都市」の実現には、健康でいることの大切さを子どもたちが学ぶことが一層重要になっていく。
- 市の北・中・南部のそれぞれに図書館が整い、「図書館城下町」と呼ぶにふさわしいまちの姿になった。
- 全小中学校における図書館のリニューアル、司書の配置等により子どもたちの読書環境が向上した。
- 予測が難しい時代において、社会の変化を受け止め、柔軟に関わっていく力を育むためには読書が重要なツールになる。
- 本市は、これまでどの自治体よりも積極的に読書活動推進に取り組んできたが、今後も市民が読書に接する機会を多く持てるよう取り組んでいくことが大切である。
- 人生100年時代の中で、増加が見込まれるおひとりさまが生き生きと暮らせるよう、生き甲斐づくりや集える場所が必要になる。
- 本市では、居場所となる様々な施設が整備されてきたが、今後は、どのように活用していくかが重要になる。
- 様々な縁が希薄な今の社会では、出入りが自由で、緩く人と人が繋がることのできる環境が必要になっている。